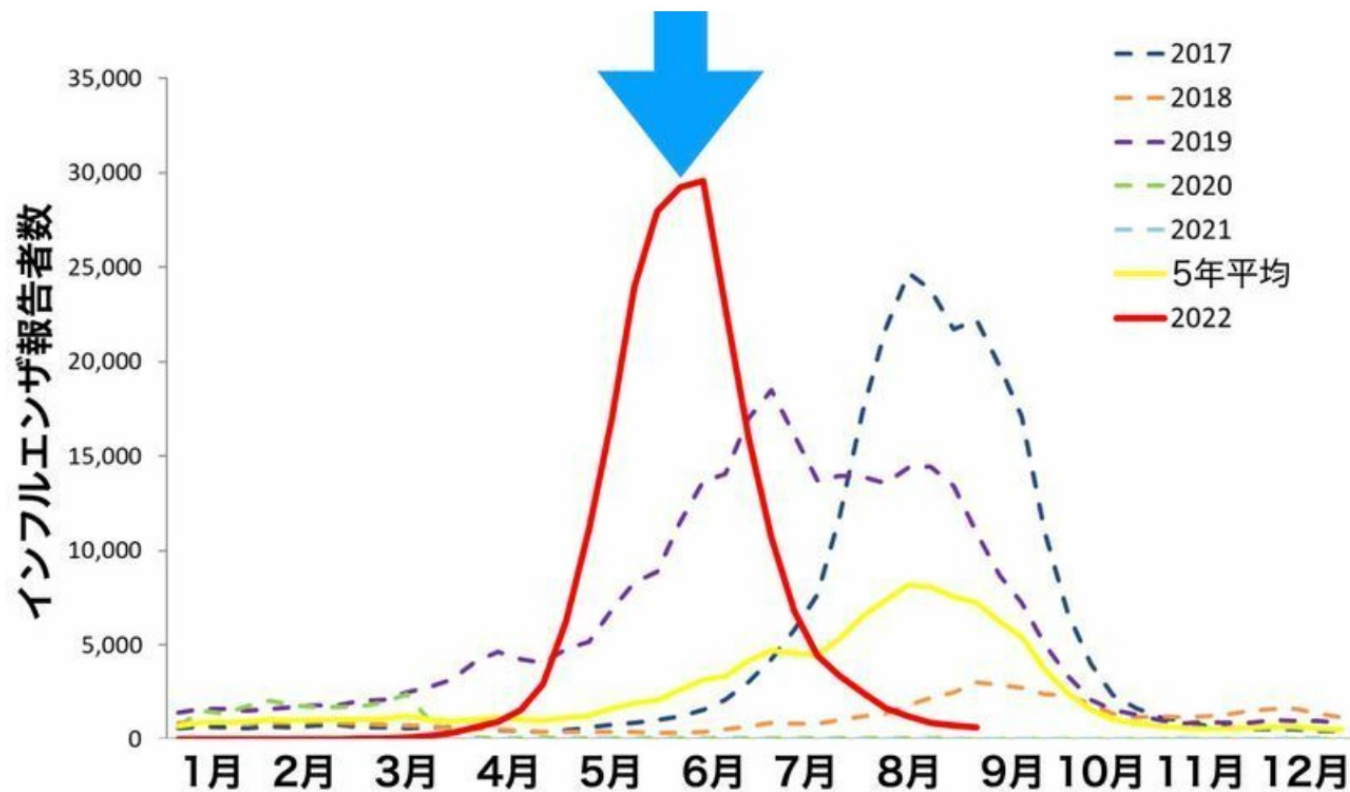


インフルエンザ & コロナ : 2022年冬の注意点

2022年の冬、インフルエンザが流行？

- 日本では、2019年以降インフルの流行がほぼない
→ インフルの免疫を持たない人が増えている
- オーストラリア（南半球なので、5-7月が冬）では、2019年ぶりに大きな流行
→ 同様のことが日本でも起こるかもしれない



オーストラリアのインフルエンザの流行状況 (オーストラリア保健省)

インフルとコロナは、症状だけで判別が困難

- オミクロン株による新型コロナウイルスの症状は、咽頭痛や鼻水の頻度が高い
- 当初コロナに特徴的だった嗅覚異常・味覚異常の症状が少なくなっている



特にインフルエンザワクチン接種が推奨される方

- 以下のように、「罹患したときに重症化リスクが高い方」は特に接種を推奨*1
 - それ以外の方も、できるだけ多くの方に接種を推奨*2
- ワクチン接種で100%罹患を防げるわけではないので、いずれにせよ手洗いなどは重要

- **65歳以上の方**
- **60~64歳で、**
 - 心臓、腎臓、呼吸器の機能に障害があり身の回りの生活を極度に制限される方
 - HIVウイルスによる免疫の機能に障害があり、日常生活がほとんど不可能な方
- **インフルエンザの合併症のリスクが高い方**
 - **生後6か月以上5歳未満の乳幼児**
 - **妊娠中の方**
 - 神経疾患のある子ども
 - その他特定の基礎疾患を持つ方
- **医療従事者、薬局スタッフ、その他重要インフラの業務従事者の方**

*1 日本ワクチン学会, 2022-23シーズンの季節性インフルエンザワクチンの接種に関する日本ワクチン学会の見解, http://www.jsvac.jp/pdfs/JSVAC_2022-23flu.pdf,

*2 一般社団法人日本感染症学会 提言 2022-2023年シーズンのインフルエンザ対策について (一般の方々へ)

インフルエンザの治療：抗インフルエンザ薬の推奨

■ 抗インフルエンザ薬が特に推奨される方

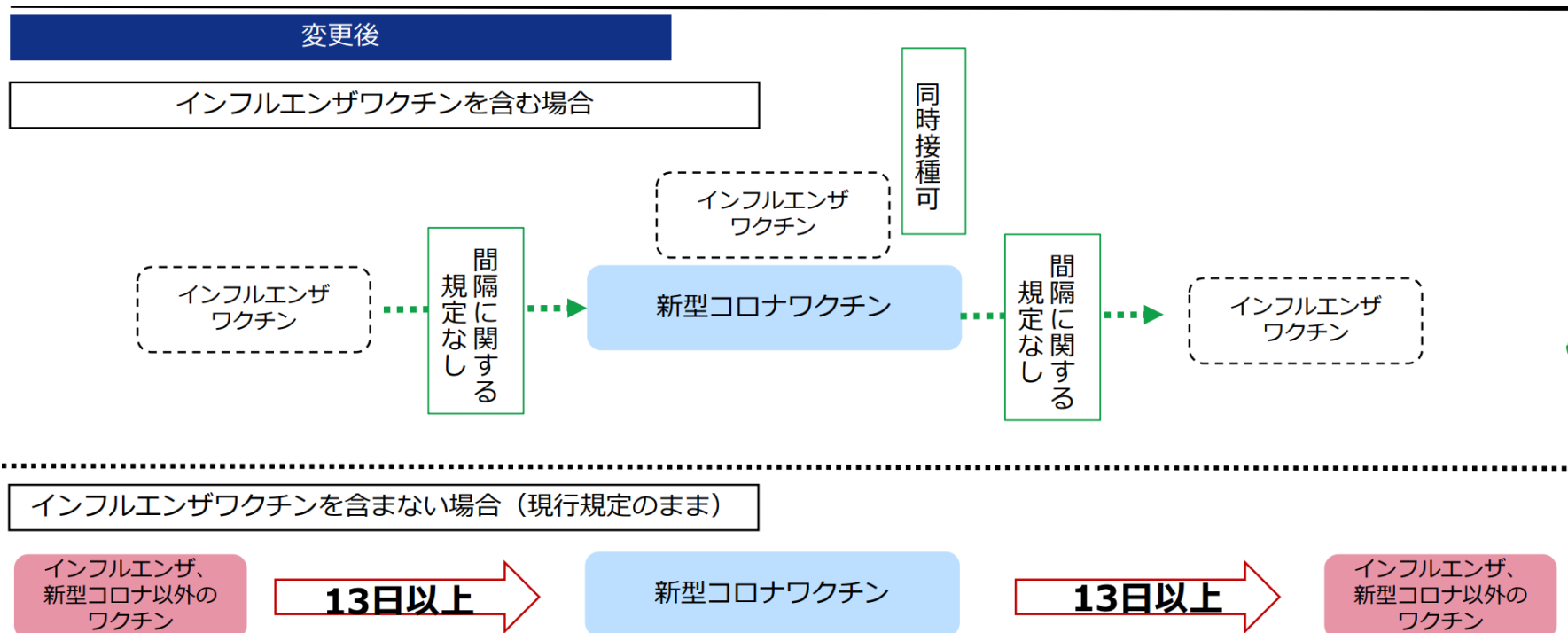
- 入院までの期間に関わらず、インフルエンザで入院したすべての患者
- 罹病期間に関わらず、重症あるいは症状の進行する外来患者
- 慢性疾患及び免疫抑制患者を含む、インフルエンザの合併症のリスクが高い外来患者
- 2歳未満の小児および65歳以上の高齢者
- 妊婦および産後2週以内の患者

■ 抗インフルエンザ薬の検討をされても良い方

- 発症後2日以内の患者
- ハイリスク群の方と同居などをされている方
- ハイリスク群の方を日常的にケアする医療従事者

コロナワクチンとの関係で注意すべきことは？

- 新型コロナワクチンとインフルエンザワクチンを同時に摂取しても、単独で接種した場合と比較して、有効性及び安全性が劣らない
- コロナとインフルのワクチンは2週間開ける必要がなくなった
(コロナワクチンの前日や翌日にインフルワクチンを接種してもOK)



コロナワクチン同士での接種間隔も規定が変更

- もともと、コロナワクチンを打ったら、次のコロナワクチン接種まで5ヶ月の接種間隔が必要だった
- 接種間隔が、3ヶ月に短縮された

【重要なお知らせ】

オミクロン株対応ワクチンの接種間隔が短縮されました

5か月

短縮

3か月

接種間隔「3か月」での
予約受付中